

ロシア軍の我が国周辺における 動向について

防衛省

ロシアの国防費と装備の近代化

(換算)1ルーブル=0.017ドル

装備の近代化

○国防費の増大を背景に、停滞していた**装備の近代化**を積極的に推進

○装備国家綱領(2011~2020年)では、**10年間で20兆ルーブル**を投じ、**新型装備の比率を7割**にするとされた

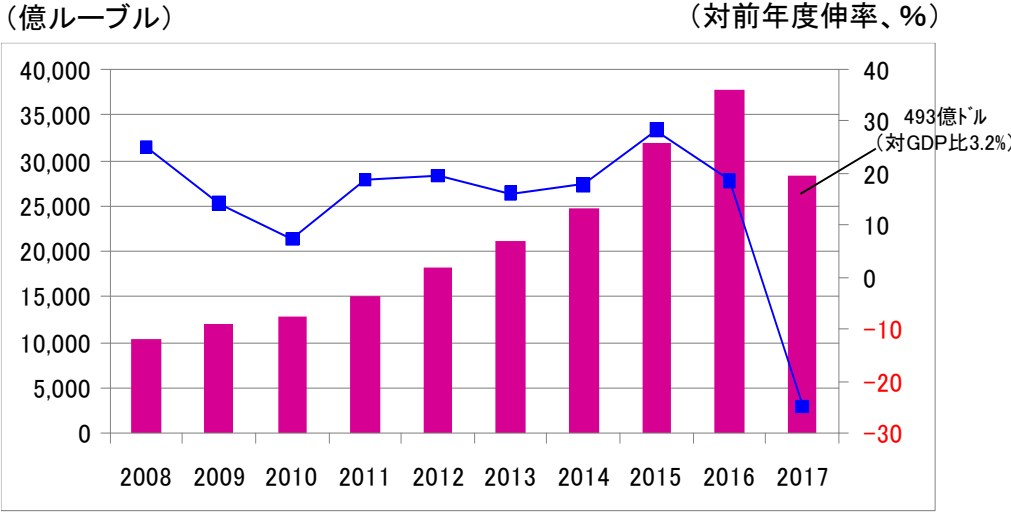
⇒**新型の戦略原潜・潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)の調達**や**新型の大型ICBMの開発**を優先させ、**艦艇、航空機、地対地ミサイル、地対空ミサイル**等の調達も計画






国防費減額の影響

○しかし、ここ数年の財政状況は厳しく、**2017年度予算額は前年度比で約25%の減額**

○厳しい財政状況の中、今後、**装備調達の遅れ**なども予想される



※1 資料源:ロシア連邦国庫「連邦予算執行報告」等
 ※2 2008年~2016年は執行額、2017年は当初予算額

<p>「ボレイ級」戦略原潜</p> 	<p>○太平洋艦隊、北洋艦隊に配備中 ○新型SLBM「ブラヴァ」を16発搭載 ⇒最大射程:8,300km、 ⇒弾頭部に最大10個の再突入体(MIRV)を搭載可能</p>
<p>地対地ミサイル「イスカンデル」</p> 	<p>○弾道ミサイル迎撃能力を持つ新型の防空ミサイル ⇒最大射程:500km ⇒命中精度2~5m</p>
<p>地対空ミサイル「S-400」</p> 	<p>○弾道ミサイル迎撃能力を持つ新型の防空ミサイル ⇒最大射程(対航空機):400km 最大射程(対弾道ミサイル):60km ⇒最大高度27km</p>

(資料源: IHS Jane's、各種報道等)

極東ロシア(東部軍管区)の状況

○ 極東地域のロシア軍の戦力は、ピーク時に比べ大幅に削減された状態にあるが、**依然として核戦力を含む相当規模の戦力が存在**

○ プーチン大統領は2012年5月の就任時、**戦略的国益の擁護を目的として、極東・極北地域における海軍力の整備の方針を表明**

○ わが国周辺におけるロシア軍の活動は、**活発化の傾向**がみられる

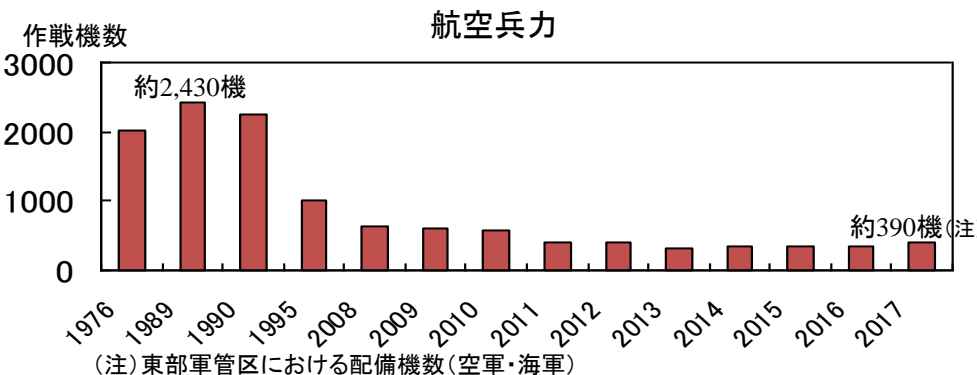
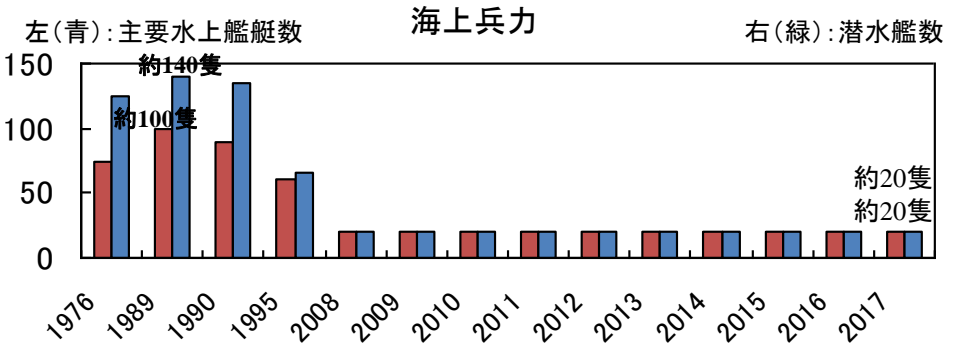
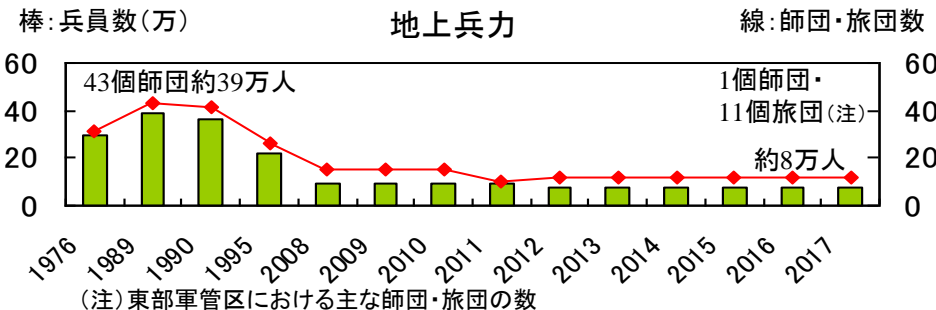


○ ロシア軍全般が**戦略核部隊の即応態勢を維持し、常時即応部隊の地域間機動による紛争対処**を運用の基本としている

○ このことを踏まえると、**他の地域や他の軍管区との間の機動展開**も想定されることから、**他の地域や他の軍管区の部隊の動向にも注目しておく必要がある**

極東ロシアの軍事力の推移

(防衛白書)



1976: 51大綱策定時、89: ピーク時、90: 初減少、95大綱策定時

最近のわが国周辺におけるロシア軍の活動

ロシア軍の演習・訓練

- 大規模演習「ヴォストーク2014」(2014年9月)は、カムチャッカ、サハリン、沿海地方南部等で実施され、兵員15万人以上、戦闘車両4,000両以上、艦艇約80隻、航空機約630機が参加

ロシア軍航空機の活動

- 我が国のロシア機に対する緊急発進回数は年平均で約330回(過去5年間)であり、活発化の傾向がみられる
- 領空侵犯は3件(過去5年間)
- 長距離爆撃機による日本周回飛行は年に概ね1、2回実施(過去5年間)

ロシア軍艦艇の活動

- 宗谷・津軽・対馬海峡を通過したロシア海軍艦艇数は年平均で約80隻(過去5年間)であり、活発化の傾向がみられる
- 年に1~3回、ロシア海軍艦艇10隻以上が宗谷海峡を通過(過去5年間)

(資料源:防衛白書、統幕公表等)

(注) 艦艇や航空機の移動した経路はイメージ



北方領土駐留ロシア軍部隊

駐留部隊

- 第18機関銃・砲兵師団が、着上陸防御を目的として択捉島及び国後島に駐留(同部隊の規模は3,500人)

露大統領、国防相による訪問

- 2010年11月、メドベージェフ大統領(当時)が元首として初めて国後島を訪問し、セルジュコフ国防相(当時)も翌年2月に北方領土を訪問
- 2011年2月、メドベージェフ大統領(当時)は、セルジュコフ国防相(当時)に対して、「クリル」諸島の装備の近代化に必要な措置を取るよう指示
- 2011年3月、参謀本部がクリル駐留部隊の装備更新に関する細部計画を策定したとされる

装備更新・施設整備

- 北方領土には、戦車、多連装ロケット、地对空ミサイルなどが配備
- 2015年12月、ショイグ国防相は択捉島及び国後島における軍事施設地区の整備を活発に行っており、392の建物等を整備する予定である旨発言
- 2016年3月、ロシア国防省はクリル諸島駐留部隊に地对艦ミサイル「バスチオン」及び「バル」を年内に配備する予定であることを明らかにした(同年11月、太平洋艦隊機関紙により、同地对艦ミサイル部隊が択捉島及び国後島での任務にそれぞれ就いていることが判明)



北方領土配備の地对艦ミサイルの主な性能



地对艦ミサイル「バスチオン」
○射程:300km
○速度:2,700km/h
(約マッハ2.2)



地对艦ミサイル「バル」
○射程:130km
○速度:972km/h

ロシアから見た北方領土・千島列島の軍事的意義

外交専門誌・報道による指摘

(資料源: National Interest、ロシア通信、Soviet Military Power 1989等)

- 「クリル」諸島(北方四島・千島列島)は、ウラジオストク配備の**主要水上艦を中心とする艦艇の太平洋への自由なアクセスを維持していく上で重要**
- さらに、弾道ミサイルの長射程化に伴い、旧ソ連は、**戦略原潜を防護し易いオホーツク海等における「バステオン(要塞) (注)」戦略を進めたことから、同諸島の価値が更に高まった**
- **同諸島(択捉島)への地対艦ミサイル「バル」配備は、ペトロパヴロフスク配備の新型「ボレイ」級を始めとする戦略原潜の活動に適したオホーツク海の聖域化を狙ったもの**

(注) 「バステオン(要請)」⇒ 米国防省は、その報告書「Soviet Military Power 1989」等の中で、旧ソ連が自国領土に近い海域において、地勢も利用しつつ、陸海空軍のアセットにより防護する戦略原潜の活動領域を「バステオン」と呼称。戦略原潜が配備されている露北洋艦隊及び露太平洋艦隊は、それぞれバレンツ海及びオホーツク海を中心に「バステオン」を設定するとされる

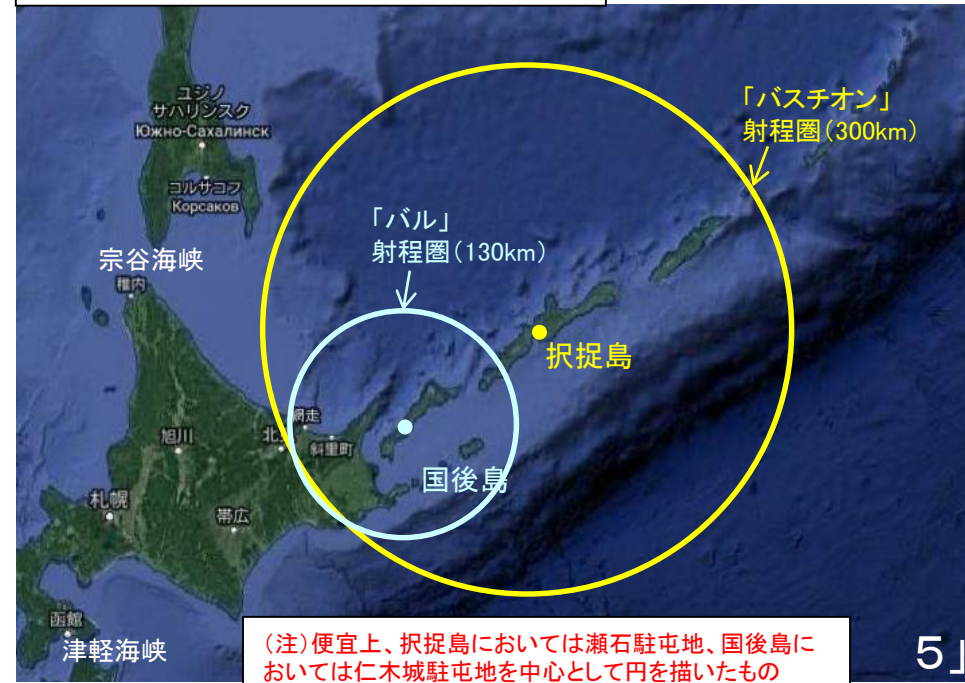
※ 報道によれば、2018年より松輪島及びパラムシル島で基地建設が開始される予定であり、また、両島に地対艦ミサイル「バル」及び「バステオン」を配備予定(現時点で本件に関する露政府の発表はない)【2017.11.29日付露イズベステア、RIAノヴォスチ】

我が国周辺におけるロシア軍の配置

※海水のため、通常1月～3月にかけて宗谷海峡や択捉島・国後島周辺の海峡通過は困難



地対艦ミサイル射程イメージ



(注)便宜上、択捉島においては瀬石駐屯地、国後島においては仁木城駐屯地を中心として円を描いたもの